

平山越庵(隆一改め)

入会の詮議がくがく初燕
競り合ふや早月尾根と雲の峰
絵団扇や八尾の風を胸裡まで
夕顔の大輪開き友和顔
一立山一を常温で飲み魂送り
玉座より飛蝗とびたつ草の国
句の一つ出来ず暮れゆく西鶴忌
神通川鳶の神楽や神の留守
植木職の手仕舞ひの音日の短か
愚管抄先まだ厚き寒日和

.....

三日坊主の私が俳句を四年間も続けているのは東北大鬼城句会
あればこそ。

最近ではテレビNHK俳句を毎週見、入選句を記録し、テキストに
も目を通す。

隔月の兼題五句を作り、三時間の句会に臨み、帰ってノートを整
理するなど通算すると相当の精進。

村上谿聲先生には、句作のいろはや句会のルールなどほとんど知ら
ない私を、脱落しないよう辛抱強く俳句の世界に導き入れていた
いた。互選に漏れた句も主宰撰で拾い上げていただく、おまけでも
選ばれれば嬉しい、次回もまた頑張ってみようという気になる。

入会権のそれだろう民法の講義を思い出すよなアと、法学部仲間
ならではの句会は楽しい。リズムや詩情に溢れ、思弁と格調に満ち
た会友の句を見るにつけ、せめてその足元にとと思うが前途程遠い、
でも会のある限り続けようと思う。そして主宰の本復を希うこと
切々。